

〈特集補遺「モダリティ」〉

インドネシア語のモダリティ Modality in Indonesian

佐近 優太
Yuta Sakon

東京外国語大学大学院総合国際学研究所
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿の目的は、特集「モダリティ」(『語学研究所論集』第16号, 2011, 東京外国語大学)における30個のアンケート項目に対するインドネシア語のデータを与えることである。

Abstract: This report aims to provide the Indonesian data which answers the thirty survey questions for the special volume of *the Journal of the Institute of Language Research 16, 2011*, which focuses on the cross linguistic study of 'Modality'

キーワード: モダリティ, インドネシア語

Keywords: modality, Indonesian

1. はじめに

本稿では、インドネシア語のモダリティについて記述を行う。今回の記述は『語学研究所論集』第16号(2011)の特集テーマ「モダリティ」のアンケート項目に基づいている。アンケート回答に際しては、執筆者が日本語からインドネシア語¹に翻訳した後、コンサルタント二名²に協力していただき修正を行った。構成について、各例文の一行目はアンケート原文の日本語である。次に対応するインドネシア語表現を示す。ただしインドネシア語が完全に原文の日本語と一致しない場合もあるため、日本語訳を付しておく。その後各表現に対して説明を加える。

2. インドネシア語データ

(1) この仕事が終わったら、もう帰ってもいいですよ。【許可】

Kalau pekerjaan ini sudah selesai, Anda {boleh/ bisa} pulang.
if work this already finish 2SG permit/ can return

「この仕事が終わったら、あなたは帰ってもいいですよ」

許可は(1)のように、助動詞 *boleh* を使って表す。同じように可能の助動詞 *bisa* を使って表すこともできるが、帰ることが可能であるという事実を表すものであり、厳密な許可とは言えない。この違いは次の否定文の場合に明らかである。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 基本的に書き言葉における標準インドネシア語を用いるが、一部口語体またはインフォーマルな文体も含まれる。そうした場合はその都度明記する。

² コンサルタントは Rahmat Sopian 氏と Himawan Pratama 氏である。この場を借りて感謝の意を表す。

(2) 腐っているから、あなたはそれを食べてはいけません。 / それを食べるな。【禁止】

a. Makanan itu sudah busuk, jadi Anda tidak {boleh /[?]bisa} makan.

food that already rotten then 2SG NEG permit/ can eat

「その食べ物はもう腐っているから、あなたは食べてはいけません」

b. Makanan itu jangan dimakan karena busuk.

food that PROH eaten because rotten

「その食べ物は腐っているから、食べてはいけません」

禁止(2a)では *boleh* のみを用いることができ、*bisa* では不自然である。これは *tidak boleh* が禁止を表しているのに対して *tidak bisa* は能力的な不可能性、例えば「これは固すぎて食べられない」のような事態を表し、文脈にあわないためである。また(2b)のように副詞 *jangan* を使って禁止を表すこともできる。

(3) 遅くなったので、私たちはもう帰らなければならない。【義務】

Karena sudah malam, kami {harus/mesti} pulang.

because already night 1PL.INCL have.to return

「もう夜になってしまったので、私たちは帰らなければならない」

義務「～しなければならない」は(3)のように助動詞 *harus* または *mesti* を使って表す。

(4) 雨が降るそうだから、傘を持って出かけた方がよい。【推奨】

{Lebih baik / Sebaiknya} bawa payung, karena katanya akan hujan.

more good/better take umbrella because it.is.said will rain

「雨が降るそうなので、傘を持って行った方がよい」

(5) 若者は年寄りのいう事を聞くべきだ³。【評価的義務】

a. Yang mudah {harus/mesti} mendengarkan yang tua.

REL easy have.to hear REL old

「若者は年寄りのいう事を聞かなければならない」

b. Kalau masih muda, {lebih baik / sebaiknya} kita mendengarkan yang tua.

if still young more good/ better 1PL.INCL hear REL old

「まだ若いなら、私たちは年寄りのいう事を聞いた方がよい」

c. Kalau masih muda, {seharusnya/semestinya} kita mendengarkan yang tua.

if still young should 1PL.INCL hear REL old

「まだ若いなら、私たちは年寄りのいう事を聞くべきだ」

(4)(5)は「推奨」と「評価的義務」の例文である。基本的に「推奨」は副詞 *lebih baik* または *sebaiknya* を使って表す。一方「評価的義務」は助動詞 *harus/mesti* または副詞 *seharusnya/semestinya* を用いる。また *lebih baik* と *sebaiknya* は(5b)のように弱い評価的義務という形で用いることができるが、*seharusnya* と *semestinya* は推奨の文脈にはあわない。これについて *seharusnya* と *semestinya* は明確な事実や強い慣習

³ アンケート原文は「年を取ったら、子供の言う事を聞くべきだ。 / 聞くものだ。」であるが、インドネシアの慣習にあわないこと、原文のままではインドネシア語に翻訳しにくいことから変更した。

を基にした確信度の高い提言を表すためという回答をコンサルタントから得た。

(6) お腹が空いたので、(私は)何か食べたい。【希望】

Saya {mau/ingin} makan karena sudah lapar.
1SG want eat because already hungry
「私はお腹が空いたので、(何か)食べたい」

希望「～したい」は助動詞 mau / ingin を用いる。

(7) 私が持ちましょう。【意志】

- a. Biar saya bawa.
leave 1SG take
「私に持たせて」
- b. Biar saya saja yang membawa=nya.
leave 1SG just REL take=DEM
「私が持ちましょう」
- c. Akan saya bawa.
will 1SG take
「私が持つよ」

「私が～しよう」という意志表示は基本的に動詞 biar(kan)「～にしておく」を使って命令文で表す。(7b)の関係詞 yang を用いた疑似分裂文の場合は、「あなたではなく、私が持ちます」というように文意が明確になる。また未来の助動詞 akan を用いても似た意味を表すことが出来る(7c)。

(8) じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】

- a. Ayo, mari kita makan siang.
let's let's 1PL.INCL eat noon
「さあ、一緒に昼ご飯を食べに行こう」
- b. Kita makan siang bareng, yuk?
1PL.INCL eat noon together let's
「一緒に昼ご飯に行かない？」

(9) 一緒にご飯を食べませんか。【相手の意向が不明な場合の勧誘】

- a. Mari kita makan bersama.
let's 1PL.INCL eat together
「一緒にご飯に行きましょう」
- b. Kita makan bareng, yuk?
1PL.INCL eat with let's
「一緒にご飯に行かない？」
- c. Bagaimana kalau kita makan bersama?
how if 1PL.INCL eat together
「一緒にご飯に行くのはどうですか」

d. Mau(=kah)⁴ Anda makan bersama?

want=Q 2SG eat together

「一緒にご飯を食べませんか(あなたは一緒にご飯を食べたいですか)」

「勧誘」では相手の意向が不明か否かによる文法的形式の差異はなく、(8)(9)のように一人称複数包括形を主語にし、*mari* や *yuk*(口語)⁵「～ませんか」が用いられることが一般的である。ただし(8a)のように *ayo*「さあ」という間投詞を使うと、相手の同意がすでに取れていることが明確になる。相手の意向が不明な勧誘には *mari* の他にも *bagaimana kalau*「～するのはどうですか」のような形式(cf. (28))、*maukah Anda*「あなたは～したいですか」のように願望の助動詞を用いることが出来る。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】

a. Saya harap cuaca=nya baik besok.

1SG hope weather=DET good tomorrow

「私は明日良い天気になることを望みます」

b. {Semoga/mudah-mudahan} besok cuaca=nya baik.

please tomorrow weather=DET good

「明日良い天気になりますように」

「～だといいなあ」という表現は動詞 *harap*「～を望む」か、副詞 *semoga/muda-mudahan* を使用する。後者の場合感情の持ち主は一人称に限られ、形式的には表示されない。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。【命令】

Segera bawa barang itu ke sini. Saya tunggu.

immediately take thing that to here 1SG wait

「すぐにその物をここに持ってきなさい。私は(ここで)待っています」

「命令」は他動詞の場合ゼロ接頭辞形⁶を使って表す。(11)では *bawa*「持つ」がゼロ接頭辞形になっている。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか? 【懇願】

Boleh(=kah) saya pinjam bolpen itu?

may(=Q) 1SG borrow pen that

「そのペンを借りてもいいですか」

懇願は許可の助動詞 *boleh* を使って表す。

⁴ =kah は疑問の標識であるが、義務的ではない。

⁵ (8)(9)にある *bareng*「一緒に」も口語体に用いられる語である。

⁶ 他動詞において、対応する主語が動作主であることを示す標識として、多くの場合語幹に *meN-*を伴う。ただし命令文では *meN-*などの接頭辞を伴わない形で現れ、その場合を本稿では「ゼロ(接頭辞)形」と呼ぶ。

(13) あの人は日本語⁷が読めます。／あの人は日本語を読むことができます。【能力可能】

a. Dia {bisa/dapat/mampu/sanggup} membaca bahasa Jepang.
3SG can read language Japan

「彼は日本語が読めます」

b. #Bahasa Jepang ter-baca oleh saya.
language Japan TER⁸-read by 1SG

「彼はうっかり日本語を読ってしまった」

(14) 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。【状況可能】

a. Saya tidak {bisa/dapat/ ?mampu / ?sungguh} membaca apa yang tertulis di sini.
1SG NEG can read what REL written in here

karena ruangan=nya gelap.

because room=DET dark

「部屋が暗いので、私はここに書いてあるものを読めなかった」

b. Ini tidak ter-baca oleh saya karena ruangan=nya gelap.

this NEG TER-read by 1SG because room=DET dark

「部屋が暗いので、ここに書いてあるものを私は読めない」

(13)は能力可能、(14)は状況可能の例である。可能の助動詞 *bisa / dapat* はどちらの場合でも用いることが出来る。しかし *mampu / sungguh* は能力可能のみを表すため、(14a)のような文脈では容認度が下がる。反対に、可能の意味を持つ接頭辞 *ter-*の使用は状況可能に限られる(13b)(14b)⁹。コンサルタントによれば(13b)は不自然な表現である。あえて解釈しようとするれば訳文のように非意図的な意味となり、少なくとも能力可能には解釈できない。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。【確信】

a. Mereka pasti sudah tiba di sana karena berangkat pagi-pagi.

3PL must already arrive in there because leave early.morning

「朝早く出発したので、彼らはもうそこに着いているはずだ」

b. Mereka seharusnya sudah tiba di sana karena berangkat pagi-pagi.

3PL should already arrive in there because leave early.morning

「朝早く出発したので、彼らはもうそこに着いているはずだ」

⁷ アンケート原文では「中国語」であるが、インドネシア語において中国を表す単語として *Tionggok*, *Tionghoa*, *Cina* が存在し、使い分けについて議論もあるため、ここでは「日本語」に変更した。

⁸ *ter-*は他動詞語幹について基本的に受動態を作り、「結果状態」「可能」「非意図」の意味を表す接頭辞である。本稿ではグロスを *TER-*と表記する。

⁹ インドネシア語では基本的に接頭辞 *ter-*が能動文に生起しない(14')。

(14') *Saya tidak ter-baca apa yang ditulis di sini.

1SG NEG TER-read what REL written in here

「(意図した意味)私はここに書いてあることを読めない」

(16) (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。【推量】

- a. {Mungkin/barangkali} dia tidak akan datang besok.
maybe 3SG NEG will come tomorrow
「彼は明日たぶん来ないだろう」
- b. Bisa jadi dia tidak akan datang besok.
can become 3SG NEG will come tomorrow
「彼は明日たぶん来ないだろう」

確信(15)は話者にとって実現可能性が高いと捉えられおり、推量(16)は(15)に比べると蓋然性は低い。(15)の場合には副詞 *pasti* / *seharusnya* が用いられている。この *seharusnya* は「義務」(5)と同形式である。一方で(16)のような推量の場合には副詞 *mungkin* / *barangkali*(16a)または *bisa jadi*「あり得る、起こり得る」というイディオム(16b)を使用する。

(17) 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。【疑念】

- Mereka belum juga datang.
3PL not.yet also come
「彼らはまだ来ない」
- a. Jangan-jangan mobil=nya rusak di tengah jalan.
perhaps car=DEM broken in middle way
「もしかすると途中で車が壊れたんじゃないか」
- b. {Mungkin/barangkali} mobil=nya rusak di tengah jalan.
maybe car=DEM broken in middle way
「きっと途中で車が壊れたんじゃないか」
- c. {Sepertinya/kayaknya} mobil=nya rusak di tengah jalan.
it.seems.that car=DEM broken in middle way
「途中で車が壊れたようだ」
- d. %Kelihatannya mobil=nya rusak di tengah jalan.
it.looks.like.that car=DEM broken in middle way
「途中で車が壊れたようだ」

(18) (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。【可能性】

- Siang-siang begini dia di rumah=nya mungkin ada. Mungkin juga tidak.
noon like 3SG in house=DEM maybe exist maybe also NEG
「昼間だから、彼は家にいるかもしれないし、いないかもしれない」

(17)は「～のではないか」という疑念の例であり、*jangan-jangan* という副詞をはじめとし、蓋然性の低い推量(16)で用いられた副詞 *mungkin* / *barangkali* を用いることが出来る。加えて「彼らがまだ来ないなんて」という判断の根拠があるために、証拠性判断の副詞 *sepertinya* / *kayaknya*(口語)の使用も可能である。(19)で確認するように、*sepertinya* / *kayaknya* は証拠性の種類に関わらず広く用いられる。一方で *kelihatannya* は *lihat*「見る」をという動詞から派生した語であり、基本的に視覚による証拠性判断の際に用いられる。しかし視覚以外の判断についても容認する話者もおり、(17d)では容認度に揺れがある。また(18)のように蓋然性が非常に低い可能性の場合には *mungkin* が用いられる。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。【視覚/聴覚以外の感覚による判断】

(Sambil menyentuh dahi anak=nya, Ibu berkata)¹⁰

while touch forehead child=DEM mother say

「子供の額にさりながら、お母さんはいった」

“Sepertinya kamu demam.”

it.seems.that 2SG heat

「あなたは熱があるようだ」

(19') a. Dia seperti anjing.

3SG like dog

「彼は犬のようだ」

b. ?Dia seperti demam.

3SG like heat

「彼は熱のようだ」

前述のように *sepertinya* は様々な種類の証拠性判断に広く用いることが出来る。また *sepertinya* の語基である *seperti* は比喩的な意味を表すため通常(19'a)のような場合に使用し、(19'b)は不自然となる。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。【伝聞】

a. (Menurut ramalan cuaca,) katanya besok akan hujan.

according.to forecast weather it.is.said tomorrow will rain

「天気予報によると、明日は雨が降るそうだ」

b. (Menurut ramalan cuaca,) sepertinya besok akan hujan

according.to forecast weather it.seems.that tomorrow will rain

「天気予報によると、明日は雨が降るようだ」

伝聞「～そうだ」は基本的に *katanya* を用いる(20a)。これは *kata* 「言う」に副詞化の *-nya* が付いたものであり、「～の言うところでは」という意味になる。また *sepertinya* でも伝聞を表すことが出来る(20b)。なお *menurut ramalan cuaca* 「天気予報によると」のように情報の出所が明示されている場合には、必ずしもこれらの副詞を用いなくてもいい。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけれどなあ。【反実仮想】

{Jika / Kalau / Seandainya} saya punya uang, mungkin saya akan membeli mobil itu.

if 1SG have money maybe 1SG will buy car that

「もしお金を持っていれば、あの車を買うんだけれどなあ」

¹⁰ 明確な動作主と動作対象がなければ状況を想定しにくいとのことで、執筆者が「母が子のおでこを触る」という状況を追加した。

- (22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。【反実仮想過去】
 {Jika / Kalau / Seandainya} Anda tidak memberi petunjuk, mungkin saya tidak akan sampai di situ.
 if 2SG NEG tell guide maybe 1SG NEG will until in there
 「もしあなたが(道を)教えてくれなかったら、たぶん私はそこにたどり着けなかったでしょう」

インドネシア語に反実仮想を表す特別な文法形式は無い。しかしこの場合条件節を導く接続詞 *jika* や *kalau* の代わりに *seandainya* 「仮に」が用いられると、反実仮想の度合いがより強くなる。またインドネシア語では時制が存在しないため、過去の反実仮想の場合(22)でも動詞の形式が変化しない。

- (23) (あの人は) 街へ行きたがっている。【3人称の主体による希望】

Dia {mau / ingin} pergi ke kota itu.
 3SG want go to city that
 「彼はその街に行きたがっている」

「希望」を表す際に人称によって形式が変わることはない。(6)の一人称の場合と同じ形式である。

- (24) 僕にもそれを少し飲ませろ。【1人称命令】

- a. Biarkan saya minum dulu.
 leave 1SG drink first
 「ちょっと私に飲ませてください」
- b. Bagi, dong. saya juga mau.
 share DP 1SG also want
 「分けてよ。私も飲みたい」
- c. Minta minum dong.
 please drink DP
 「飲ませてよ」

- (25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。【3人称命令】

- a. Biarkan dia membawa=nya.
 leave 3SG take=DEM
 「彼にそれを持って行かせよう」
- b. Suruh dia membawa=nya.
 command 3SG take=DEM
 「彼にそれを持って行かせよう」

命令では、その動作主体が一人称・三人称両方の場合に *biarkan* を用いる。また(24b) (24c)にある *dong* は、念押しなどをする際に用いられる口語的な表現である¹¹。三人称の場合には *suruh* 「命令する」を用いることもできる。

¹¹本稿では Sneddon(2006: 118)に則り、DP (discourse particle) とグロスを表記する。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。【遠未来命令形】

Di atas meja ada kue, silakan dimakan nanti.
in above table exist cake please eaten later

「テーブルの上にお菓子があります。どうぞ後で食べてください」

インドネシア語に遠未来命令の特別な文法形式は存在しない。ここでは *nanti* という副詞によって「後で」の意味が表されている。

(27) もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

a. Kalau saja saya datang lebih awal.

if only 1SG come more early

「もっと早く来ればよかった」

b. Coba aja tadi datang lebih awal.

try only just.before come more early

「もっと早く来ればよかった(もっと早く来ることを試せばよかった)」

(21)(22)で見たように反実仮想は基本的に *seandainya* によって表される。しかし(27a)のように条件節を導く *kalau* に *only* の意味をあらわす *saja* をつけ、従属節のみで「～だったらなあ」という意味を表すこともできる(cf. (28))。(27b)は口語体であり、動詞 *coba* 「試す」と *aja*(<*saja*) を使って反実仮想的な意味を表している。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ? 【脱従属化】

Bagaimana kalau Anda ikut pergi bersama mereka?

how if 2SG follow go with 3PL

「あなたも一緒に行ったらどうですか」

脱従属化について、(28)のような状況では *bagaimana* 「どうですか?」を伴う文が自然である。しかしインドネシア語に脱従属化が見られないわけではなく、(28)において *bagaimana* を省略することもできる。また(27a)も脱従属化の例であり、*kalau* が導く条件節が独立した文として機能している。

(29) オレがそんなこと知るか! 【(疑問詞を含まない)反語】

a. Mana gue tahu.

where 1SG know

「(そんなこと)オレが知るか!」

b. Mana mungkin saya tahu.

where maybe 1SG know

「(そんなこと)私を知るか」

「反語」の文には *mana* が用いられる。*mana* は「どこ(*where*)」や「どちら(*which*)」を表す場合もある。また(29a)の *gue* は友達同士などのインフォーマルな場で用いられる一人称代名詞である。

(30) これを作った（料理した）のは、お母さんだよね？ / いいえ、私が作ったのよ。【付加疑問】

Ini ibu yang memasak, kan? / Bukan. Saya yang memasak.

this mother REL cook NEG NEG 1SG REL cook

「これはお母さんが作ったんだよね？ / いいえ、私が作りました」

「付加疑問」には否定辞 *bukan* が用いられる。上記の例のように *kan* と短縮形になる場合が多い。

略号一覧

1: first person, 2: second person, 3: third person, DEM: demonstrative, DET: determiner, IMP: imperative, INCL: inclusive, NEG: negation, PL: plural, PROH: prohibitive, Q: question marker, REL: relative, SG: singular

参考文献

Sneddon, J. N. (2006) *Colloquial Jakartan Indonesian*. Canberra: Australia Pacific Linguistics, Research School of Pacific and Asian Studies, The Australian National University.

Sneddon, J. N., Adelaar, K. A., Djenar, D. N. & Ewing, M (2010) *Indonesian: A Comprehensive Grammar. 2nd edition*.

執筆者連絡先: sakon.yuta.n0@tufs.ac.jp

原稿受理: 2019年12月25日